

# 製本のススメ

Vol. 56

新学期が始まりました。大型文具店に行くと、ちょっと楽しい文具がたくさんあります。雑然とした机上でも存在を主張できる高層ビル並のブロックメモ。書いても消せるボールペンやラインマーカー・昭和の趣たっぷりのホチキス・・・色々なアイデアグッズが満載で、楽しい小物には癒されますね。

## 今回は紙を学ぼうの話し

皆さんは印刷のプロですから、出来上がりの質感やイメージがより良く見栄えする様な用紙を幾つか選んで紹介するべきです。また新しい用紙が発売されたら、ぜひとも紙屋の営業さんを捕まえて、諸々の特徴程度は知っておきましょう。

さて見積もりの際に「用紙は何ですか？」と聞かれる事があるでしょう。同じ分量でもコートと上質では紙の厚みが違います。薄く重いか又は厚く軽いかでさえ、加工方法や加工時間が変わる為です。ペラで使うなら厚みの有る紙も良いですが、16頁を折るのには不向きの場合もあります。また、用紙によっては**加工手段を限定される紙**も沢山あり印刷しました>製本できません!(@\_@;)と言う事もしばしば起こります。用紙が薄くて加工出来ない例ではPP貼りがあります。本文と共紙だからというのは企画の打ち合わせ段階で、すでに紙選びの不具合が発生している事になります。

**上製本の加工では、紙(材料)選びと紙目で出来栄の半分が決まります。**残りの半分が印刷と製本の出来栄と言っても決して過言ではありません。丸背上製本の加工では**紙選びと紙目を間違えると加工できる製本会社は皆無です!**その為もう一度用紙の発注からやり直しになってしまいます。

また単純な二つ折りでさえも逆目では折り加工が進まず、スジ入れ等の追加加工が発生し納期と金額に支障がでることも多くあります。

用途別にしっかり紙と紙目を選ぶ事で、加工も・仕上がりも良くきっとお客様に納得して頂けるはずです。時々、紙の見本帳も見てください。



## Teabreak

スポーツの秋ですね、休日には各地で運動会!運動会の花形競技はリレーですが、そのアンカーとなれば華々しい名誉ですね。さてこのアンカー(最終走者)は、元々リレー用語ではなく綱引きの競技からきています。綱引きでは最後尾の選手のふんばりが勝敗を決します。綱を地面に繋ぎとめる重りという意味でAnchor(忪り)と呼んだそうで、この名を借用してリレーの最終選手をアンカーと呼ぶようになりました。

by (株) 井関製本